

「ヤクルトCSR行動計画」 (2021年度活動結果)

- 対象期間 国内:2021年4月～2022年3月 海外:2021年1月～12月
- 達成度
 - ◎:十分な成果(目安:100点(%)以上)
 - :概ね目標どおりの成果(目安:80点(%)以上100点(%)未満)
 - △:取り組みが不十分(目安:80点(%)未満)
 - ×:取り組みなし(目安:0点(%))

Yakult

I. 消費者課題

重要テーマ	2021年度 行動目標	2021年度の主な活動実績	達成度
「安全・安心」な 商品の提供 ・ お客さま第一主義 ・ お客さま 個人情報保護	1. 顧客満足の上向	<ul style="list-style-type: none"> ●「あんぜん・あんしんクリニック」の「お届け健康診断」を活用し、ヤクルトレディのセルフチェックを実施。 (実施ヤクルトレディ:16,427人) ●ヤクルトレディ向けの冊子「けんちょう」に「お届け品質」に関する情報を掲載したほか、お届けの「基本対応」強化月間(7月)を設け、「お客さまへの第一印象をアップさせる私たちのアカサタナ」をテーマとした研修・活動を展開。 ●販売会社担当者向け「ヤクルト届けてネット」個人情報保護に向けた教材の提供。 ●ヤクルトビューティ等に対し、ヤクルトビューティエンスとヤクルトレディ手帳を統合した手帳を配布することにより、お客さまを訪問するときのルール等を徹底。安全・安心な商品提供に関する情報は、研修や情報誌で共有しサービスの向上を推進。(配布部数3,385部) ●通信販売業務において、セキュリティ事故による個人情報の漏洩やウイルス感染等の防止を図った。 ●工場責任お申し出品に対する再発防止策を確実に実施。 実施率:100%(50件/50件)/15工場合計 ●お客さまニーズに対応した機能的ベネフィットが備わった商品「Y1000」、「肝ファイブ」を導入。 ●「Newヤクルト」、「Newヤクルトカロリーハーフ」用マルチシュリンクフィルムの開け口イラストを視認性の高い内容にし、開封時の注意事項を追加表示。 ●「Yakult(ヤクルト)1000」の賞味期限印字位置を変更し、視認性を向上。 	○
	2. 各種国際規格 認証の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●各種国際規格認証の取得の推進(海外工場 2022年8月現在) 取得数:HACCP(21)、GMP(9)、ISO 9001(10)、ISO 14001(6)、ISO 22000(8)、FSSC 22000(3)、 ISO 45001(2)、SQF(2) ※新規取得は広州ヤクルト(株)佛山工場 ハラル認証(タイ2工場、フィリピン、インドネシア2工場、シンガポール、マレーシア、台湾) 	○
	3. ユニバーサル デザインの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●「ラクトデュウ」、「グランティアコフレ」、「コクウム」、「パラビオ セラム サイ」用パッケージデザインおよび医薬品に、すべての年齢や障がいの有無に関係なく、あらゆる人が判読しやすいユニバーサルフォントを採用。 	◎
	4. 工場・研究所への 見学者の受け入れ 推進(オンライン化 での対応を推進)	<ul style="list-style-type: none"> ●(国内)新型コロナウイルス感染拡大防止のため、国内工場・中央研究所見学の受け入れを中止。 ・オンライン工場見学の実施(5月:兵庫三木工場、9月:全国乳製品工場に展開)。 ・販売会社のお客さま向けオンラインツアーの構築を推進(湘南化粧品工場)。 ・中高校生対象のオンライン企業訪問プログラムの実施。(19校620人受講) 大学で実施する教育プログラムにも対応。 ●(海外)新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Webを活用した工場見学の試みを実施。 	○

Ⅱ. コミュニティへの参画およびコミュニティの発展

重要テーマ	2021年度 行動目標	2021年度の主な活動実績	達成度
社会貢献活動 の推進 ・ 地域の文化・慣習 の尊重	1. 出前授業、 健康教室の推進 (オンライン化での 対応を推進)	<ul style="list-style-type: none"> ●国内 集合型で実施する場合は、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底している。 出前授業:2,472回、参加人数111,541人(前年差:961回、44,691人) 健康教室:11,471回、参加人数111,442人(前年差:3,847回、7,587人) 美容教室:842回、参加人数5,669人(前年差:220回、1,287人) ※オンライン版の出前授業「おなか元気教室」を制作(3月に全国案内)。 2022年度は非対面・非接触開催の要望にも対応した、双方向コミュニケーションによる出前授業を新たに展開し、地域における企業価値向上活動の継続展開を図る。 ●海外 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Webを活用した試みを実施。 出前授業:10,228回、参加人数957,855人(前年差:▲6,904回、▲321,355人) 健康教室:210,276回、参加人数7,303,118人(前年差:94,257回、▲592,678人) ※前年差を比較した2020年度の実績には、コロナ禍前の数値も含む。 	○
地域課題解決 への活動	2. 愛の訪問活動、 地域の見守り・ 防犯協力活動の 推進	<ul style="list-style-type: none"> ●愛の訪問活動:実施販売会社:51社120の自治体から要請を受けて実施。 対象高齢者数:35,279人、協力ヤクルトレディ数:2,650人 ●地域の見守り・防犯協力活動:実施販売会社:101 932の自治体等と連携実施。 実施センター数:2,037、協力ヤクルトレディ数:26,115人 	○
地域社会との 関係強化	3. スポーツ振興の 推進 (新型コロナウイルス の感染状況により、 開催や実施方法を 検討)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各活動を中止。 <ul style="list-style-type: none"> ●野球教室(現役選手)、つばめスポーツ野球教室:中止 ●「ヤクルトランニング教室」、自治体・学校等の要請に応じたコーチ・選手派遣等:中止 ●地域清掃活動への参加:中止 ●「戸田ラグビー祭」への協力、「タグラグビー教室」開催:中止 ●全日本バウンドテニス選手権大会の開催:中止 ●日本バウンドテニスゴールド大会の開催:中止 	×

Ⅱ. コミュニティへの参画およびコミュニティの発展

重要テーマ	2021年度 行動目標	2021年度の主な活動実績	達成度												
社会貢献活動 の推進 ・ 地域の文化・慣習 の尊重 ・ 地域課題解決 への活動 ・	4. 自治体等との 協働事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ●遊技事業協同組合と連携した障がい者福祉施設における社会貢献支援活動を実施。 (20都道府県72施設 合計約74万本の当社商品に年賀シールの貼り付けを依頼) ●Web「大腸がん情報サイト」を運営。大腸がん検診の受診を啓発するトピックスを配信。 累計訪問者数1,500万人 ●「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」に則り支払総額564百万円を公開。 ●国立市と災害時の水供給について協定を締結、子ども110番への協力。 ●「ピンクリボン」活動への協賛、協力。(シンガポール、インドネシア、ベトナム) ●フードバンクを運営する団体「VLA」に、賞味期限が近づいたヤクルト24,960本を提供。(ヨーロッパ) ●「朝ごはん活動」(雲南省山岳部の貧しい小学生が朝食を食べられる活動)に協賛。(中国) ●小児がん患者へのチャリティとして、1万豪ドル(約83万円)を寄付。(オーストラリア) ●新型コロナウイルスに関する医療従事者等への寄付。 病院、行政機関、高齢者施設、学校、軍隊、警察、地域コミュニティ等に対し、「ヤクルト」等の商品を寄付。(2021年1～12月累計) <p>【寄付本数】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 30%;">アジア・オセアニア</td> <td style="width: 20%;">2,140件</td> <td style="width: 50%;">3,524,325本</td> </tr> <tr> <td>米州</td> <td>3,472件</td> <td>8,947,290本</td> </tr> <tr> <td>欧州</td> <td>40件</td> <td>124,165本</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5,652件</td> <td>12,595,780本</td> </tr> </tbody> </table>	アジア・オセアニア	2,140件	3,524,325本	米州	3,472件	8,947,290本	欧州	40件	124,165本	合計	5,652件	12,595,780本	○
アジア・オセアニア	2,140件	3,524,325本													
米州	3,472件	8,947,290本													
欧州	40件	124,165本													
合計	5,652件	12,595,780本													
地域社会との 関係強化	5. 工場祭の実施に よる地域との交流 (新型コロナウイルス の感染状況により、 開催や実施方法を 検討)	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全工場の工場祭を中止。 ●各工場において地域イベントへの協賛や寄付活動を実施。 活動件数:41件(15工場合計) 	△												

Ⅲ. 環境

重要テーマ	2021年度 行動目標	2021年度の主な活動実績	達成度
脱炭素社会の実現 ・ 資源循環できる 容器包装への転換	1. 温室効果ガス排出量(国内スコープ1・2)を2024年度末までに2018年度比10%削減	●CO ₂ 排出量 5.2%削減(2018年度比) <u>進捗率52%</u>	◎
	2. (1)プラスチック製容器包装の使用量(国内)を、2024年度末までに2018年度比5%削減あるいは再生可能な素材に転換する (2)容器包装の資材使用量を削減 (3)容器包装の素材変更により環境負荷を低減 (4)容器包装に植物由来の環境にやさしい素材を使用	●プラスチック製容器包装使用量 【速報値】約6%増加見込み(再生可能でないもの)(2018年度比)	×
水使用量の削減	3. (1)水使用量(国内乳製品工場:原単位)を2024年度末までに2018年度比3%削減 ①節水活動 ②「水の管理計画」策定	●用水使用量(原単位) 2.4%削減(2018年度比) <u>進捗率:80%</u>	◎
廃棄物の削減	4. (1)廃棄物発生量を2024年度末までに2010年度比20%以上削減 (2)食品廃棄物の再資源化率95%以上の維持	●廃棄物発生量 23.6%削減(2010年度比) ●食品廃棄物の再資源化率 96.2%	◎
生物多様性の 保全と活用	5. 生物多様性の保全と活用 (1)自然保全活動の支援・参画 (2)生物多様性に関する教育の推進	●植樹活動の実施。(全国工場、研究所13か所) ●オイスカ「子供の森」計画支援。 ●中国、内モンゴル自治区の砂漠環境改善のため、2015年から植林公益事業に参加し、毎年2,000本の苗木を寄付。(中国) (2015～2021年度累計:約14,000本。350,000元/6,280,000円相当) ●ヨーロッパでは、グローバルに活動するNGOと提携し、アフリカ、南米などに3年間で10,000本の植樹を行い、経過モニタリング予定。(2022.1月～)	○

IV. 労働慣行

重要テーマ	2021年度 行動目標	2021年度の主な活動実績	達成度
職場安全衛生の推進 ・ ワークライフバランス の推進 ・	1. 健康経営の推進 強化	<ul style="list-style-type: none"> ●健康経営の推進(職場安全衛生の推進) ・健康経営優良法人(ホワイト500)の取得。(5年連続) ・Web健康講座の実施(全5回)全国掲示板にて周知し、受診促進を図った。 ①8/2～8/20 「がん」を知っていますか 【受講率】 83% ②8/16～8/31 喫煙と健康 84% ③10/1～10/15 睡眠と休養 87% ④1/17～1/28 働く人のための健康管理 92% ⑤3/7～3/18 セルフケアの基本 88% ・定期健康診断結果有所見者の再検査受診率100% ・乳がん検診受診率49.0%、子宮がん検診受診率51.2% 「がん」をテーマとしたWeb健康講座を実施し、受診の必要性を啓発。また、就業時間内の検診を認めるなど、受診しやすい環境を整備した。 	◎
女性の活躍推進 ・	2. 工場での 安全衛生巡視 の実施	<ul style="list-style-type: none"> ●各工場で安全衛生巡視を実施し、指摘箇所の改善を実施。 実施回数:520回、指摘件数:1,759件、改善件数:1,726件 改善実施率:98.2%(15工場合計) ※改善未実施箇所については、改善に向けて検討中。 	◎
多様性の推進	3. 有給休暇取得 日数の向上、 時間外労働の 削減	<ul style="list-style-type: none"> ●休暇取得 76.5%(平均取得日数:14.3日)(前年差 1.0日) ●時間外労働時間 1人当たり9.0時間/月(前年差 0.9時間/月) 	○

IV. 労働慣行

重要テーマ	2021年度 行動目標	2021年度の主な活動実績	達成度
職場安全衛生の推進 ・ ワークライフバランス の推進 ・	4. ワークライフ バランスの推進 男性育児休暇取 得率目標:20% ※育児休業取得男性 社員数/配偶者 の出産があった男 性社員数	<ul style="list-style-type: none"> ●男性育児休業取得率 86.4% (前年差 70.5%、2020年度 15.9%) 男性育児休業平均取得日数5日以上(2025年度までに) 22.4日 (5日以上の取得率 84.3%) 2022年4月の法改正に先駆けて、2021年10月から育児休業取得意向を確認するとともに、対象者とその上長向けに取得の働きかけを実施。 ●55歳の社員を対象とした「ライフプランセミナー」の実施。参加者43人。(受講率100%) ●ヤクルトレディ労働環境整備のための資機材助成 消化率94.9%(予算170百万円) ●認可外保育施設指導監督基準を満たす旨の証明書取得数 475/921か所(51.6%) 	◎
女性の活躍推進 ・	5. 女性管理職比率 10%以上 (2025年度まで)	<ul style="list-style-type: none"> ●女性管理職比率 7.6% ※2022年4月集計 ●「女性のためのキャリアアップ研修」の実施。参加者187人(対象者115人、上司72人) ●海外における女性活用状況の把握 女性管理職比率27.0% 	○
多様性の推進	6. 障がい者法定雇 用率の維持	<ul style="list-style-type: none"> ●障がい者法定雇用率 2.59% (前年差 0.32%) 	◎

V. 人権

重要テーマ	2021年度 行動目標	2021年度の主な活動実績	達成度
多様性の推進 人格と人権の尊重	1. 人権啓発研修の実施・浸透	<ul style="list-style-type: none"> ●入社時研修にて「人権研修」を実施し、社員の人格と人権の尊重についての意識を高めた。 	○
	2. ハラスメント研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ●階層別研修(統括管理職研修、新任管理職研修、監督職昇格前研修)の中でハラスメントについて解説。 ●各事業所およびグループ各社の代表者、コンプライアンス担当者に対し、ZOOM等を用いて2020年に実施したコンプライアンスアンケートの結果報告とともに、ハラスメント防止に向けた啓発を図った。(129社に対し141回実施(当社含む)) ●ハラスメント防止を目的としたアニメーション研修動画を作成し、国内のヤクルトグループすべての従事者に対し視聴を促した。(延べ8,473人、13,233回視聴) 	◎

VI. 公正な事業慣行

重要テーマ	2021年度 行動目標	2021年度の主な活動実績	達成度
公正・健全な取引の推進	1.コンプライアンスの徹底	<ul style="list-style-type: none"> ● 本社と販売会社との商品取引基本契約に則った健全な取引関係の維持・向上。 ● 「ヤクルト倫理綱領・行動規準」「コンプライアンスガイドブック」等を活用した集合教育等を実施し、全従事者へのコンプライアンス遵守の啓蒙を図る。 ● MR向けに販売情報提供活動ガイドライン遵守促進のWeb研修を実施。「コード理解促進月間」(11月)を定め啓発活動を展開。 ● 厚生労働省 販売情報提供活動ガイドラインの遵守のため、プロモーション用資材等を審査する「ヤクルト医薬品製品情報概要審査会」を毎月開催。 【審査件数】292件 ● 海外事業所における「贈賄防止規程」の導入・運用。 	◎
CSR調達の推進	2. CSR調達の継続実施	<ul style="list-style-type: none"> ● 取引先124社(対象部門における調達額構成比上位90%)に対して第3回CSR調達アンケートを実施。 ● 「サプライヤー向けCSR調達方針説明会」(オンライン)を開催し、当グループのCSR調達方針およびサプライヤーCSRガイドラインについて説明し、理解・協力を依頼。 (参加者 サプライヤー:158社、約400名、当該部署:約100名) ● 各海外事業所でCSR調達推進責任者・担当者を選任。オンラインセミナー・参考図書の配布を実施し、CSRに関するグループ内の理解を深めた。 	◎

VII. 組織統治

重要テーマ	2021年度 行動目標	2021年度の主な活動実績	達成度
コーポレート ガバナンス の実践	1. 創始者の想い (代田イズム) の浸透	<ul style="list-style-type: none"> ●国内外のヤクルトグループ全体において、代田イズム研修会の実施。(集合研修、入社時研修等) 	○
	2. コーポレート ガバナンス・コード への対応強化	<ul style="list-style-type: none"> ●各種経営会議の定例開催。(取締役会8回、執行役員会27回) ●社外独立役員を中心とした情報提供の機会として、役員協議事項検討会の開催。 ●指名・報酬諮問委員会の設置、開催。 ●改訂ガバナンス・コードに対応したコーポレートガバナンス報告書の提出。 ●ヤクルトグループの「人権」・「腐敗防止」・「税務」・「広告」・「品質基本」方針を策定。 ●国連グローバル・コンパクトへの署名。 	○
コンプライアンスに 則った事業の推進	3. ステークホルダー への情報開示の 推進	<ul style="list-style-type: none"> ●仕様等をわかりやすく変更した招集通知による適切な情報開示の継続。 ●CSRレポート、コミュニケーションブックによる当グループのCSR活動情報の開示、ESG情報の充実。 ●当社Webサイトの「CSR活動」ページを改修し、ESG毎に分類、活動の要点を絞って掲載することで、ステークホルダーの当グループの取り組みへの理解促進につなげた。 	○
守秘義務の徹底	4. ヤクルト倫理綱領・ 行動規準の周知	<ul style="list-style-type: none"> ●階層別研修等での説明およびコンプライアンス担当者会議等で、「ヤクルト倫理綱領・行動規準」の再読促進や啓発を実施。 ●独占禁止法に関する基本と実務上の留意点について、「独占禁止法マニュアル」を改定・発行、基礎知識の向上のためeラーニングを実施。 ●「コンプライアンス・ガイドブック」を改定・発行、副読本「ハラスメント防止ブック」を新規発行し、理解促進を図った。 ●法務情報を提供するデータベース「みんなの法務ルーム」を開設し、利便性の向上を図った。 ●コンプライアンス委員会(9、2月)を開催し、社外有識者の委員から意見・提言を受けた。 ●企業倫理委員会(11月)を開催し、社外有識者を含む委員から取引の監視活動の確認および意見・提言を受けた。 	◎
企業情報の開示と 社会との コミュニケーション			

VII. 組織統治

重要テーマ	2021年度 行動目標	2021年度の主な活動実績	達成度
<p>コーポレート ガバナンス の実践</p> <p>・</p> <p>コンプライアンスに 則った事業の推進</p> <p>・</p> <p>守秘義務の徹底</p> <p>・</p> <p>企業情報の開示と 社会との コミュニケーション</p>	<p>5. コンプライアンスの 徹底</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 法令違反行為の早期発見・是正を目的として、コンプライアンス・ホットラインを設置し運用。 (通報件数:8件) ● 2022年4月から中小企業を対象に施行されるパワハラ防止法および2022年6月に施行される改正公益通報者保護法に対応し、より実効性のある制度とするため、規程の整備、運用面の充実を図った。非子会社販売会社への当社内部通報制度の導入または自社整備により、グループ各社における整備を促進。当社内部制度を利用するグループ会社92社。本制度を利用しないグループ会社についても自社で相談・通報窓口を整備し、適切に対応する体制を整えている。 ● 新規取引先事前相談制度を運用し、グループにおける企業倫理の確立を図った。本年度中に申請方法のオンライン化を目指し、さらなる利用促進を図る。 ● ヤクルト本社(10月)およびグループ会社にてコンプライアンス担当者会議を開催し(計7回)、法務情報の提供や担当者間の情報共有を実施。 ● グループ全従事者を対象にしたコンプライアンス強調月間を実施し、ハラスメント防止に向けた活動を集中的に実施。(2月) ● 国際部主催の地域戦略会議(アジア・オセアニア、欧州、米州の計3回)で、海外事業所代表者を対象にコンプライアンス研修を実施し、ハラスメント防止に向けた意識啓発を図った。 ● CSRに関連する各種方針を海外事業所に共有し、方針に則ったグループの事業活動促進を図った。 ● コンプライアンスへの徹底を図るため、「コンプライアンス・ガイドブック」(改訂版)、「ハラスメント防止ブック」、「コンプライアンスかわら版Vol.19~22」等を海外事業所に配布し、意識向上を図った。 ● 海外事業所の健全性を確保するための各種監査を継続実施。 <ul style="list-style-type: none"> ① J-SOX(Web)監査:ベトナム(10月)、中国(12月) ② 業務監査(Web):広州(8月) ③ 監査役・トーマツ監査(Web):インドネシア(2022年3月) 	<p>◎</p>